

平成23年3月期
決算説明資料

平成23年5月16日

 **川重冷熱工業株式会社**

平成23年3月期 決算概要

平成23年3月期の総括



当事業年度の当社の受注高は、空調市場が依然として低迷していることから空調機器本体で大型吸収冷温水機等が減少しました。ボイラ機器本体は、主力機種である大型貫流ボイラが増加しましたが、前期比1億79百万円減少の154億61百万円となりました。売上高は、大型の水管ボイラならびに排熱ボイラが減少したこと、改修改造工事・メンテナンスの減少により、前期比10億67百万円減少の152億50百万円となりました。

利益面では、諸費用の削減・コストダウンに努めましたが、市場環境低迷の影響により、営業利益は、前期比1億21百万円減少の4億88百万円、経常利益は、前期比1億21百万円減少の4億91百万円、当期純利益は、当社の関係会社である同方川崎空調設備有限公司(中国)の事業に係る特別損失として、出資金の評価損42百万円及び同社に対する債権について引当金3億25百万円を計上したことにより、前年同期比2億77百万円減少の1億33百万円の当期純損失となりました。

平成23年3月期 損益計算書



金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
売 上 高	16,317	15,250	93.5%	市場環境低迷に伴う減少による。
売上総利益	4,425	3,975	89.8%	
販売費及び一般管理費	3,814	3,487	91.4%	諸費用の削減ならびに研究開発費の減少による。
営業利益	610	488	80.0%	
営業外収益	15	20	133.3%	
営業外費用	12	18	150.0%	
経常利益	612	491	80.2%	
特別損失	191	395	206.8%	関係会社に係る特別損失の計上による
税引前当期純利益	420	95	22.6%	
法人税、住民税及び事業税	236	82	34.7%	
法人税等調整額	40	146	365.0%	
当期純損益	144	△ 133	-	

平成23年3月期 貸借対照表



資産の部

金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
流動資産	8,865	7,579	85.5%	
現金及び預金	9	12	133.3%	
受取手形・売掛金	6,463	5,232	81.0%	
棚卸資産	1,251	1,054	84.3%	
繰延税金資産	343	281	81.9%	
その他	797	998	125.2%	
固定資産	3,423	3,317	96.9%	
有形固定資産	1,718	1,645	95.8%	
無形固定資産	260	360	138.5%	財務基幹システムの稼働による
繰延税金資産	1,150	1,067	92.8%	
投資その他の資産	293	243	82.9%	
資産合計	12,289	10,897	88.7%	

平成23年3月期 貸借対照表



負債・純資産の部

金額単位：百万円（百万円未満切捨て）

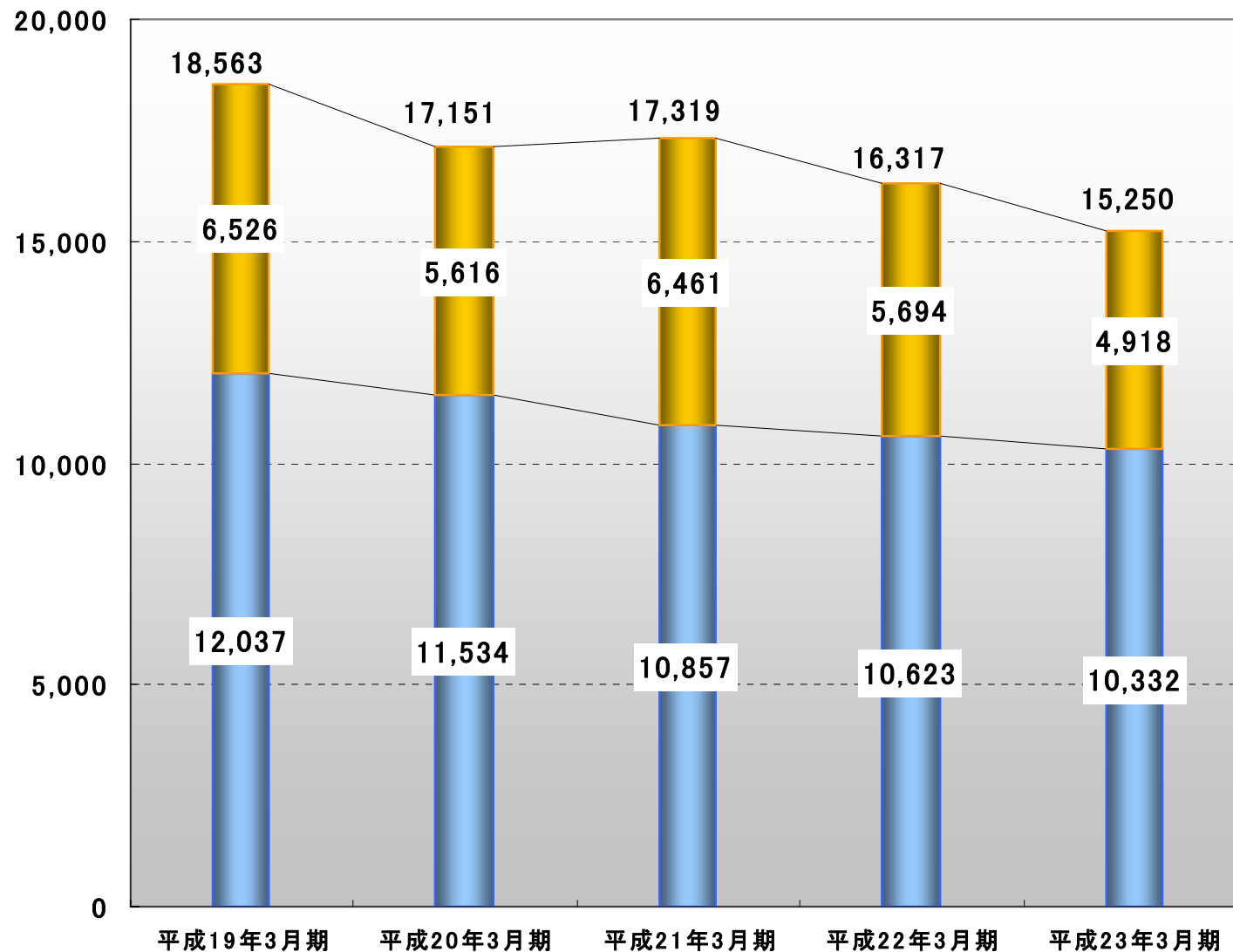
	前 期	当 期	前 期 比	備 考
流動負債	5,328	4,267	80.1%	
支払手形・買掛金	3,684	3,047	82.7%	
前受金	41	82	200.0%	
未払金・設備支払手形	173	124	71.7%	
その他の流動負債	1,429	1,013	70.9%	未払い法人税の減少による。
固定負債	2,787	2,643	94.8%	
退職給付引当金	2,676	2,564	95.8%	
その他の固定負債	110	78	70.9%	
負債合計	8,116	6,910	85.1%	
資本金	1,460	1,460	100.0%	
資本剰余金	1,228	1,228	100.0%	
利益剰余金	1,486	1,302	87.6%	
（内 当期純損益）	144	△ 133	-	
自己株式	△ 15	△ 16	-	
株式等評価差額	13	11	84.6%	
純資産合計	4,173	3,986	95.5%	
負債・純資産合計	12,289	10,897	88.7%	

売上高の推移

(単位:百万円)

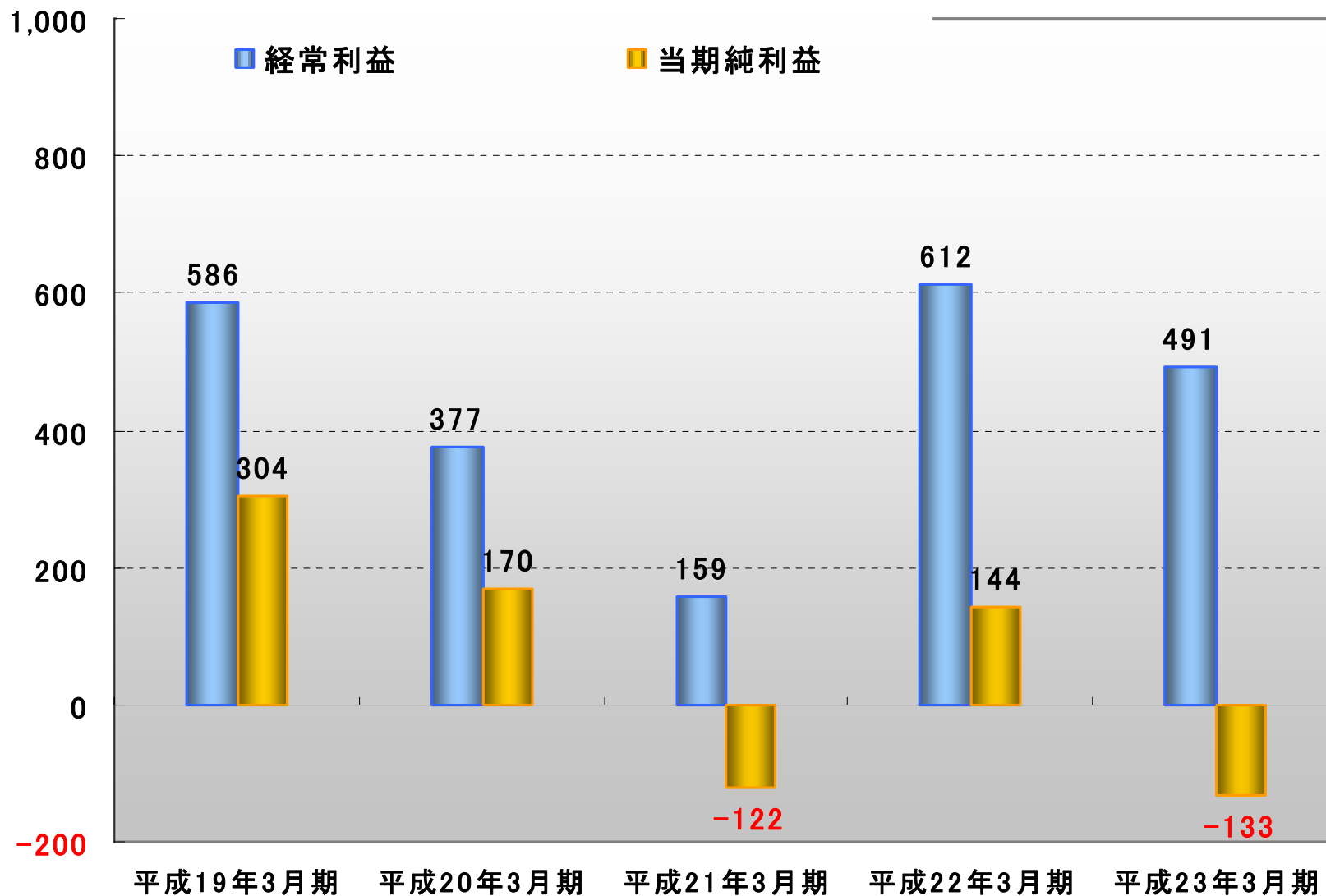
■ 空調事業

■ ボイラ事業



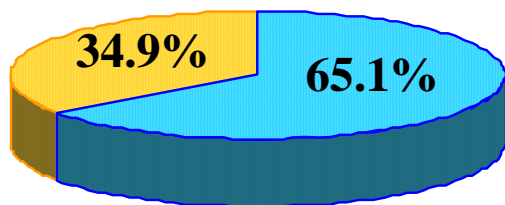
利益の推移

(単位:百万円)



売上高構成比の比較

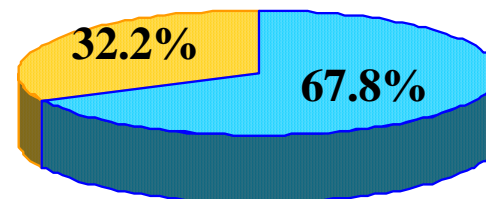
ボイラ事業



空調事業

平成22年3月期

ボイラ事業



空調事業

平成23年3月期

事業区分別分析

空調事業

改修改造工事・メンテナンスの減少により、前期を下回りました。

ボイラ事業

大型の水管ボイラならびに排熱ボイラが減少したことにより、前期を下回りました。

平成24年3月期 業績予想

平成24年3月期の業績予想



金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	当 期	来 期(予)	前 期 比	備 考
売 上 高	15,250	16,000	104.9%	
空調事業	10,332	10,400	100.7%	
ボイラ事業	4,918	5,600	113.9%	
営業利益	488	402	82.4%	
経常利益	491	400	81.5%	
当期純利益	△ 133	210	157.9%	

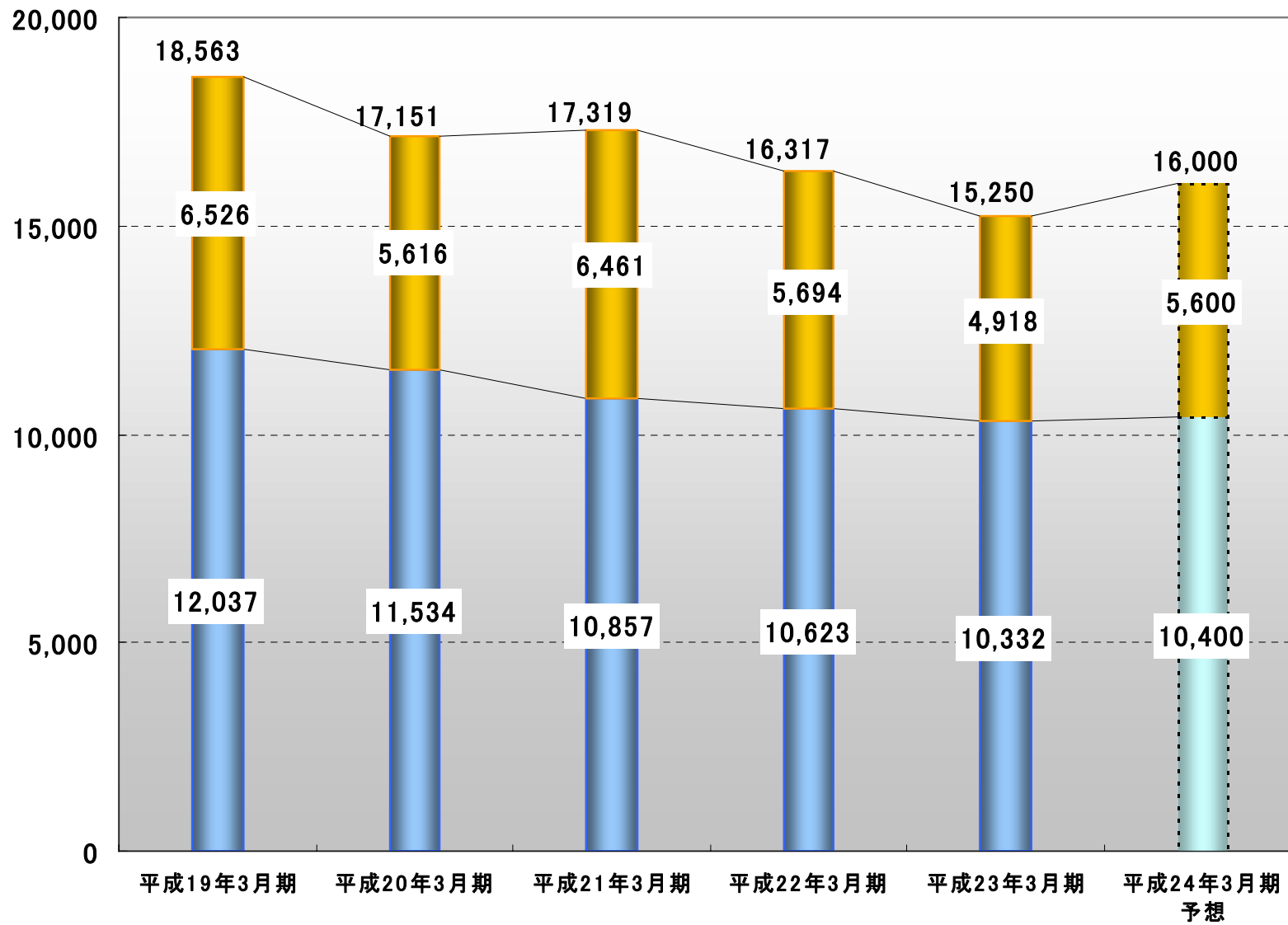
売上の推移(予想)



(単位:百万円)

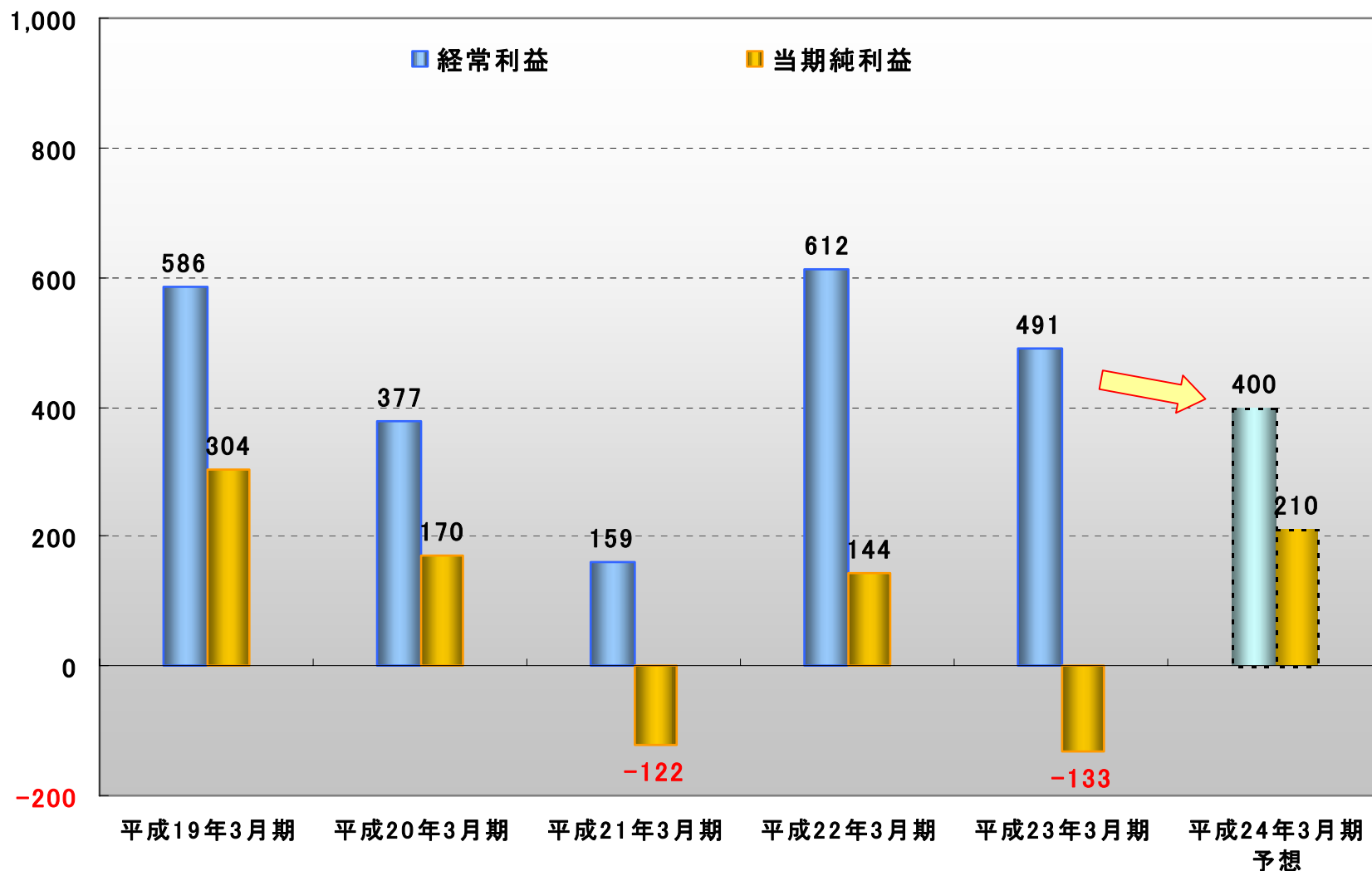
■ 空調事業

■ ボイラ事業



利益の推移(予想)

(単位:百万円)



空調事業

- ①機器本体は、期間効率(年間を通じた省エネルギー性)を向上し、製品質量の軽減によりスムーズな入替えを可能にした吸収冷温水機「シグマエース1.2Rシリーズ」をリプレースユーザーを中心にソリューション提案を行い拡販に努めます。
- ② 24時間遠隔監視システム「テレメンテ」の活用および、省エネ、省CO₂制御システム「イーカップセイバー」等の提案に取り組み、受注増加を目指してまいります。

ボイラ事業

- ①大型貫流ボイラ「イフリート」を中心とした機器ラインナップに加え、大型貫流ボイラで初めて開発に成功した「VOC(揮発性有機化合物)燃焼システム」や、「排ガスO₂濃度制御システム」等の、お客様の省エネニーズに対応する製品を提供し、拡販に努めます。
- ②24時間遠隔監視システム「テレメンテ」の活用および、燃料転換や省エネ改造等の提案に取り組み、受注増加を目指してまいります。

参 考

当社は、「エクセレントカンパニーの構築」を目指し、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを経営の基本方針としております。

当社の関連する空調業界では、環境性を考えて今後も省エネルギーおよび余剰エネルギーを有効利用する機器の開発が活発化していくものと思われます。

ボイラ業界では、貫流ボイラを中心とした市場構造には変化がないと思われます。

空調・ボイラ業界共に総需要は、景気に左右される傾向があり、新規需要に代わり、リプレース需要の増加が進んでおります。

本資料に関する問合せ



川重冷熱工業株式会社

企画室 経営管理部

TEL 077-563-1111

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。